

令和5年度渡津小学校学校評価 評価 5 そう思う

学校教育目標 たくましく賢く心豊かな子どもの育成  
スローガン～笑顔、つながる、感謝し・される子どもの育成

4 ↑  
2 ↓  
1 そう思わない

A: 達成できた  
B: 改善を検討  
C: 早急に改善

評価計画	中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値	アンケート				自己評価		改善点	学校関係者評価(学校評議員)	評価結果		
						職員	生徒児童	保護者	地域	評価ABC	結果と課題				来年度への取組	コメント
学ぶ力の育成	確かな学力の向上(かしこい子ども)	学習規律の定着	授業への姿勢(時刻・準備物)	学習の準備をしてチャイム着席がきちんとできる	4	4.4 4.5	4 (4.1)	/	/	B	・準備物がそろわない児童もいるので、改善が必要な場合は、継続して声掛けを行う。 ・「チャイム着席」の捉え方について全体で確認が必要だった。	・10分休憩の過ごし方が学級によって違っているようなので、共通理解をする必要がある。 (10分間でトイレ・授業の準備・移動をするが、子どもによっては時間を持て余している。「遊ばない」ということはわかっているが、どの程度なのか、全くしゃべらずに過ごす(読書など)のか、少しはしゃべってもいいのか。)	短期目標の内容は適切だが、すべてを学校で管理することは難しい。 自主学習の表彰は子ども達の意欲向上に繋がっていると感じるが学力の向上は家庭環境が大きく左右するため家庭での取組が大切になってくる。読書についても子どもと保護者で評価が違うので、子ども自身が取組内容を決めて達成すれば褒める仕組みが必要なのでは。	A		
		基礎基本の定着	毎月の漢字・計算会の実施	漢字・計算会の合格率80%	4	4.4 4.4	4.5 (4.2)	4.1 (4.2)	/	A	・イエブンの表彰があり、自主学習に意欲がもてた児童もいた。 ・学年間で取組に違いがある。	・自主学習の表彰を続けていき、意欲を持続させていく。				
			視写タイムの実施	定期的に視写タイムに取り組んだ	4	3.4 4	4.3 (4.4)	/	/	A	・児童の実態に応じた取組ができています。 ・決められた時間内で、一生懸命に視写に取り組んでいた。	・学年ごとに今年度の取り組みを振り返り、やり方について共通理解を図り、実施していく。今まで作成したシートを残しておくとうい。				
			学びロードの充実	学びロードを意識させることができた	4	2.8 3.8	3.7 (3.9)	/	/	B	・学年ごとに取り組みに違いがあるため、児童の意識に違いがある。	・低学年は授業中に行い、中・高学年は係の仕事にするなど工夫して取り組む。				
			考えが深まる授業を目指して45分間の授業の充実	授業の中で「めあて」と「振り返り」を位置づける	授業で「めあて」と「振り返り」を行うことができたか	4	3.9 3.9	4.1 (4.3)	/	/	B	・めあてと振り返りを行うことができていない場合がある。			・今後も意識してめあて・まとめ・ふりかえりを行っていく。	
				主体的、対話的な学びの充実	ペア学習やグループ活動で話し合い活動の充実	4	3.8 4.6	4.3 (4.6)	/	/	B	・ペア学習やグループ学習を取り入れた授業を意識して行っている。			・ペアやグループが有効である場面設定を行うために、活かし方を考えていく必要がある。 ・授業の中に意図的にペアやグループを組むこと以外にも、知りたい・分きたいという欲求から友達と関わる場面を作っていく。	
			家庭学習習慣の定着	家庭学習の充実	決められた時間ほど家庭学習に取り組んだ割合	4	4.4 4.3	3.8 (3.9)	4 (4)	/	B	・毎日の宿題はほとんどの児童がやっけてきている。			・時間を決めて取り組ませていくのであれば、そのための働きかけが必要だと思う。 ・「きちんとする」ことが大切であるのならば、今まで通りの取組をする。→評価指標を変えるとよいのではないか。	
			キャリア教育の推進	キャリアパスポートの利用	年間計画に沿って計画的に活用	4	4.4 4.6	4.7 (4.6)	/	/	A	・年間計画に沿って実施することができた。			・年に一度、家に持ち帰り、子どもたちの取り組みを見ていただく機会をもつとよい。	
			図書館活用教育	読書活動の充実 ・読書量と共に内容の充実	目標冊数読んだか。調べ学習など取り組んだか	4	3.8 4.4	4.3 (4.5)	2.7 (2.7)	/	A	・子どもの意識と保護者の意識の差が大きい。家読週間に子どもは読んでいるが、保護者と一緒に読むことが少ない。			・家読週間に保護者に一緒に読んでもらうように働きかける。 ・家読週間では学期に1回は保護者のコメントをもらい、意識してもらう。 ・保護者アンケートの項目が今のものではポイントが上がりにくいと思われるので、学校の取組(家読週間)がどうであったかを聞くようにするとい。	
			特別支援教育の充実	教職員が連携をとりながら、特別支援教育の改善充実を図る	教職員間で特別支援教育の連携ができたか。	4	4.4 4.4	/	/	/	A	・児童の具体的な支援について、教職員で連携しながら考えることができた。			・校内での連携だけでなく、清和養護学校や整肢学園の教育相談や特別支援教育専任教員の学校訪問などの外部との連携を今後も活用していく。	

11	豊かな心の育成（心豊かな子ども）	思いやりの心と人権意識の醸成	自己有用感の育成	係活動・委員会・縦割り班活動の充実	渡津小の子どもは係活動や委員会活動を通して自己有用感自己肯定感が育っている	4	4.1 4.4	4 (4.4)	4.2 (3.9)	/	A	・各委員会の常時活動などに責任をもって取り組んだり特別活動を工夫したりすることができた。	・来年度は、委員会を編成する場合があると考えられるので、様々な役割を整理していく必要がある。	三則の徹底について、くつそろえは必ずも公共の場ではできていないように感じる。注意すればすぐに直す素直さはある。親の姿勢が大切で子どもは親の背中を見ている。保護者ができていなければ三則の徹底は難しいのではないかと感じている。縦割り班活動は色々な学年と一緒に活動でき良い取組だと思う。	B
12			掲示物の活用 良いとこ見つけ等の実施	渡津小の子どもは友達や先生・地域の方から認められていると感じる	4	4.1 4.3	/	/	/	B	・各クラスとも道徳や学活の授業で実施した。児童の様子を共通理解し、様々な場面で励ませよう心掛けることができた。	・今後も日々の児童とのかかわりを大切に、場面に応じ適切な声かけをしていく。			
13			関わりを大切に する子の育成	認め合い励まし合う集団づくりに努める	縦割り班活動やふるさと教育などのふりかえりや反省・感想を通してかかわること協力することの良さに気づいている	4	4 4.3	4.7 (4.7)	4.3 (4.4)	/	A	・工夫して取り組むことができた。縦割り班と一緒に遊ぶ等、活動を増やすことができた。	・他学年や地域の方々とのおふれあいを大切にして、人と関わり合うことの重要性について伝えていく。		
14			三則の徹底	あいさつ・返事・くつそろえの習慣化	挨拶や返事、くつそろえができていく割合	4	3.9 3.8	4.4 (4.4)	3 (2.7)	4.6 (4.4)	B	・家庭では引き続き成果が出ていないが、あいさつについては活発になりつつある。	・三則の徹底については引き続き取り組んでいく。指導に変化をつけながら、児童の意識がより改善されるようにしていく。		
15			人権・同和教育の充実	人権週間・人権の花・人権集会の取り組み 校内研修の充実	優しい関わりが増えた児童の割合	4	3.3 4.3	4.6 (4.7)	4.4 (4.4)	/	B	・人権集会では、劇の内容を縦割り班で話し合うことで「思いやり」についてしっかりと考えることができた。 ・人権週間の取組として行った「縦割り班なかよし大作戦」は、異学年とよりよく関わることができた。 ・人権の花の活動が、子どもたちの中で意味ある活動につながっていないため、やり方を考えていく必要がある。	・人権集会で扱った内容の中で、大切なところを校内に掲示する等、児童の目に留まる形にし、日々の学校生活の中で常に意識できるようにする。 ・人権週間に限らず、優しい関わりができるように声掛けを行う。良い姿は積極的に褒め、認めていく。		
16	健やかな体の育成（たくましい子ども）	基本的な生活習慣の育成	交通事故防止	交通安全教室、通学路の安全点検、下校指導	交通ルールを守っている割合	4	4.3 4.7	4.7 (4.7)	4.2 (4.1)	4.4 (4.6)	A	・交通ルールを守り、安全に登下校することができた。	・来年度も今年度同様継続していく。	メディアコントロールは学校も大切かもしれないが家庭での問題であることがほとんど。しかし、学校と家庭が同じ方向を向いているというのは大切。メディアの怖さを教える学校教育が必要になってくるのではないかと。現代は、今までであれば家庭で教えることも学校で教えないといけなかったので教員の負担が大きくなっている。食育の推進の評価で、保護者のアンケート評価が3に対してAという評価に対して少し疑問を感じた。弁当の日がイベント化しているのかもう一度振り返って弁当の日を実施してはどうか。歩道を歩くことはできているが、歩道の車道側を歩く児童も多い。登下校は見守り隊のおかげで安全にできているし親も安心して	B
17			メディアコントロールの取り組み	テレビやインターネット、ゲームなどの時間についての指導、啓発	メディアコントロール期間にメディア接触時間を守った割合	4	2.8 4.5	3.7 (4.1)	2.6 (2.3)	/	C	・2学期のタイムコントロール週間では、メディアについての項目で平均6.0点(8点満点)だった。取組中は意識して生活できているが、児童・保護者のアンケートの結果から、普段の生活では意識できていないことが分かる。	・家庭と連携したタイムコントロールに関する取組を学期に1回程度、計画的に行う。 ・また、来年度も6年生を対象としたメディアに関する学習を行う計画をしているが、その際には、保護者にお知らせし、参加を呼びかける。		
18			食育の推進	食の学習の充実	バランスを考えて食事をしている割合	4	4.5 4.5	4.3 (4.4)	3 (3.1)	/	A	・栄養教諭を招いた食の学習を計画的に実施することができた。また、PTA育成部と連携した弁当の日の取組で、食に関する関心を育むことができた。	・栄養教諭による専門的な立場からの助言は児童にとって効果的だったと感じているため、今後も継続していく。		
19			体力づくり	体力調査をもとにした体育授業の改善 マラソンタイム、外遊びの充実	しっかり体を使った遊びをしたり、体育の授業などで体を動かしていると思っている割合	4	4.1 4.2	4.4 (4.4)	4.3 (3.9)	4.3 (4.7)	B	・10月後半に業間マラソンやファンランを行うことができた。また、保体委員会の活動を中心に全校リレーや縄跳び集会を行うことができた。	・体力テストの結果から立ち幅跳びに課題があるので、来年度は脚力を中心に立ち幅跳びにつながる運動を取り入れていきたい。		
20	信頼される学校づくり	学校・地域・家庭・関係機関との連携	安心安全な環境	施設の点検整備 安全教室・避難訓練の実施	安全点検や防災訓練が計画的に実施できたと思う割合	4	4.7 4.8	/	/	/	A	・計画通り安全点検と防災訓練が実施できた。	・避難訓練(地震)についてさらに工夫を加え、充実させていきたい ・校舎の老朽化にともない修繕が必要な場所が増えてきているが、引き続き、こまめに修繕しながら安全な環境づくりに努めたい。	以前であれば地域行事に参加する機会が多かったと感じるが、コロナ以降は地域行事も少なくなり地域とのつながりがあまり感じられなくなったと感じるところはある。社会教育の目線で見れば地域のつながりを大切にした活動はできていると思う。今年度は地域に出向いて意見を聞く活動、ほめ表彰、DVDを作成し配布するなど。学級便りがどの学年とも丁寧に書かれており、よかった。	A
21			関係機関との連携	地域の教育資源の活用 ・公民館との連携 ・ふるさと郷の充実	地域教材を活用した教育を実施している割合 ふるさとのよさを知ることができたと思える割合	4	4.3 4.5	4.1 (3.7)	4.4 (4)	4.4 (4.4)	B	・地域の良さを学ぶことができるよう積極的に出かけることができた。人材確保には引き続き努力が必要である。	・地域との連携を再開することができ、多くの地域の方々にご協力いただいた。精査しながらよりよい交流ができるようにしていきたい。		
22			家庭との連携	各家庭との連携 学級PTA活動の実施	学校が家庭と連携に努めていると思う割合	4	4.5 4.6	/	4.6 (4.2)	5 (5)	A	・引き続き、学校だより、学級だよりで学校の状況等を丁寧にお知らせすることを心掛けた。連絡メールも保護者の方に100%の加入をさせていただいている。	・適切な情報発信に今後も務めていきたい。		
23			保・中との連携	保小、小小、小中での情報交換・交流の場の設定	保小、小小、小中での情報交換・交流の場は有意義だったか	4	4.5 4.5	/	/	/	A	・1学期、夏休み、3学期と保小連携ができ、次年度に向けて有効だった。進学に向けて小中の連携をとることができた。	・保育所訪問や特別支援教育の観点での保小・小中連携を今後も継続していく。		

24		学校は楽しいですか(児童)	評価委員会の取組(地域)	4	/	4.4 (4.6)	4.3 (4.5)	/	A	・肯定的な意見が多かった。	・引き続き、魅力ある学校づくりを念頭におき、改善続けていきたい。
----	--	---------------	--------------	---	---	--------------	--------------	---	---	---------------	----------------------------------